

微生物資材 4 種 基本使用順序

— 根への定着 → 発根・活着 → 栄養成長 → 養分可給化へ —

みずほアグリサポートの微生物資材 4 種は、すべてを同時に使用するのではなく、それぞれの微生物が根や根圏に定着しやすい時期に、段階的に使用することを基本とします。

定植時：スーパー菌根菌 → その後：根圏サポート → 活着後：N フィックス

→ 生育安定後または開花期：プラントプロテクト菌

という順番が基本です。

具体的な日数としては、定植時、約 7 日後、約 15 日後、約 30 日後が目安として示されていますが、実際の圃場では生育や根の状態に差があるため、日数を固定せず、ある程度幅を持たせて使用します。

【基本スケジュールの目安】

① スーパー菌根菌

育苗後半～定植時を中心に、遅くとも定植後 1 週間程度まで

菌根菌は 4 資材の中でも定着に時間がかかるため、できるだけ早い時期に根へ接触させます。

特に、

・育苗後半 ・定植時 ・定植直後

など、新しい根がこれから動き始める時期が適しています。

② 根圏サポート

定植後 7～10 日頃を目安に使用

定植後、移植ショックから回復し、根が再び動き始める時期に使用します。

発根・活着を促し、トリコデルマ菌・根圏細菌・菌根菌などによって、初期の根圏環境を整えることが目的です。

病害リスクが高い場合は、その後 20～45 日程度を目安に再施用する方法もあります。

③ N フィックス

定植後 15～20 日頃を目安に、活着を確認して使用

植物がしっかり活着し、根や茎葉の生育が動き始めた頃に使用します。

窒素固定による窒素供給に加え、

- ・固定化した肥料成分の可給化
- ・オーキシン生成による根の発達促進
- ・ストレス耐性向上
- ・栄養成長の促進

などを支えます。

④ プラントプロテクト菌

定植後3～5週間頃、または開花期を目安に使用

根圏ができ、生育が安定してきた段階で使用します。

主な役割は、

- ・根の周囲へのバイオフィルム形成
- ・病原菌の侵入抑制
- ・P、K、Feなどの養分可給化
- ・栄養状態改善
- ・開花、着果促進
- ・品質、収量向上

です。

その後、必要に応じて果実の発育期間中にも繰り返し使用します。

【現場での考え方】

日数だけで判断するのではなく、次のように植物の状態を見ながら使用時期を決めます。

スーパー菌根菌 → できるだけ早く根と接触させる

根圏サポート → 定植後、根が動き始めた頃

Nフィックス → 活着が確認でき、栄養成長が始まった頃

プラントプロテクト菌 → 根圏が安定し、開花・着果へ向かう頃

つまり、

「何日後だから使う」のではなく、「その生育ステージになったら使う」

という考え方を基本にします。

【スーパー菌根菌とNフィックスを混用する場合】

スーパー菌根菌とNフィックスは混用可能です。

混用する場合は、

① 水を用意する→② Nフィックスを先に入れ、十分に溶かす

→③ その後スーパー菌根菌を加える→④ よく混ぜて施用する

Nフィックスに含まれるプレバイオティクス成分を十分に溶解させるため、Nフィックスを先に溶かしてからスーパー菌根菌を加えます。

ただし、混用可能であっても、それぞれの微生物を根圏へしっかり定着させるためには、基本的には時期をずらして使用する方法を優先します。

【重要】上記の日数はあくまで目安です。

作物、温度、土壌水分、定植時の根量、移植ストレス、栽培方式などによって、根が動き始める時期や活着までの日数は変わります。

そのため、スーパー菌根菌 → 根圏サポート → Nフィックス → プラントプロテクト菌という基本順序を守りながら、「根が動いたか」「活着したか」「生育が進んだか」「開花・着果期に入ったか」を確認して使用時期を調整することをおすすめします。

